

まちづくり活動と農空間保全との係りに関する研究 — 堺市北区金岡地区を事例として —

緑地計画学研究室
松浦由布子



研究背景及び目的・研究構成

研究背景

◆成長型から成熟型都市づくりへと移行し、都市農地の多面的機能への期待が高まり、都市においても「農」のある暮らしが模索され始めている。

◆2015年4月「都市農業振興基本法」策定

2016年5月「都市農業振興基本計画」閣議決定

⇒ 都市農業や農空間の重要性は益々高まる

◆一方、市街地圧の高い市街地縁辺部での農空間保全が困難と言われている

⇒ 堺市北区の金岡地区

- ・都市の農空間保全を目的に住民発意でまちづくり活動が行われている
- ・その活動は約20年も継続してきた

研究目的

金岡まちづくり活動の長年の経緯を追跡することによりまちづくり活動の変遷を明らかにして、まちづくり活動が農空間保全に与えた影響を探るとともに、まちづくり活動を長く継続していくための取り組み方を明らかにする

研究構成

第1章

研究背景及び目的・研究方法

第2章

まちづくり
活動の変遷

農業動態

- ・農家の動態
- ・農地の動態

第3章

農空間保全等に対する意識の変化

農家

- ・世帯代表
- ・次世代

非農家

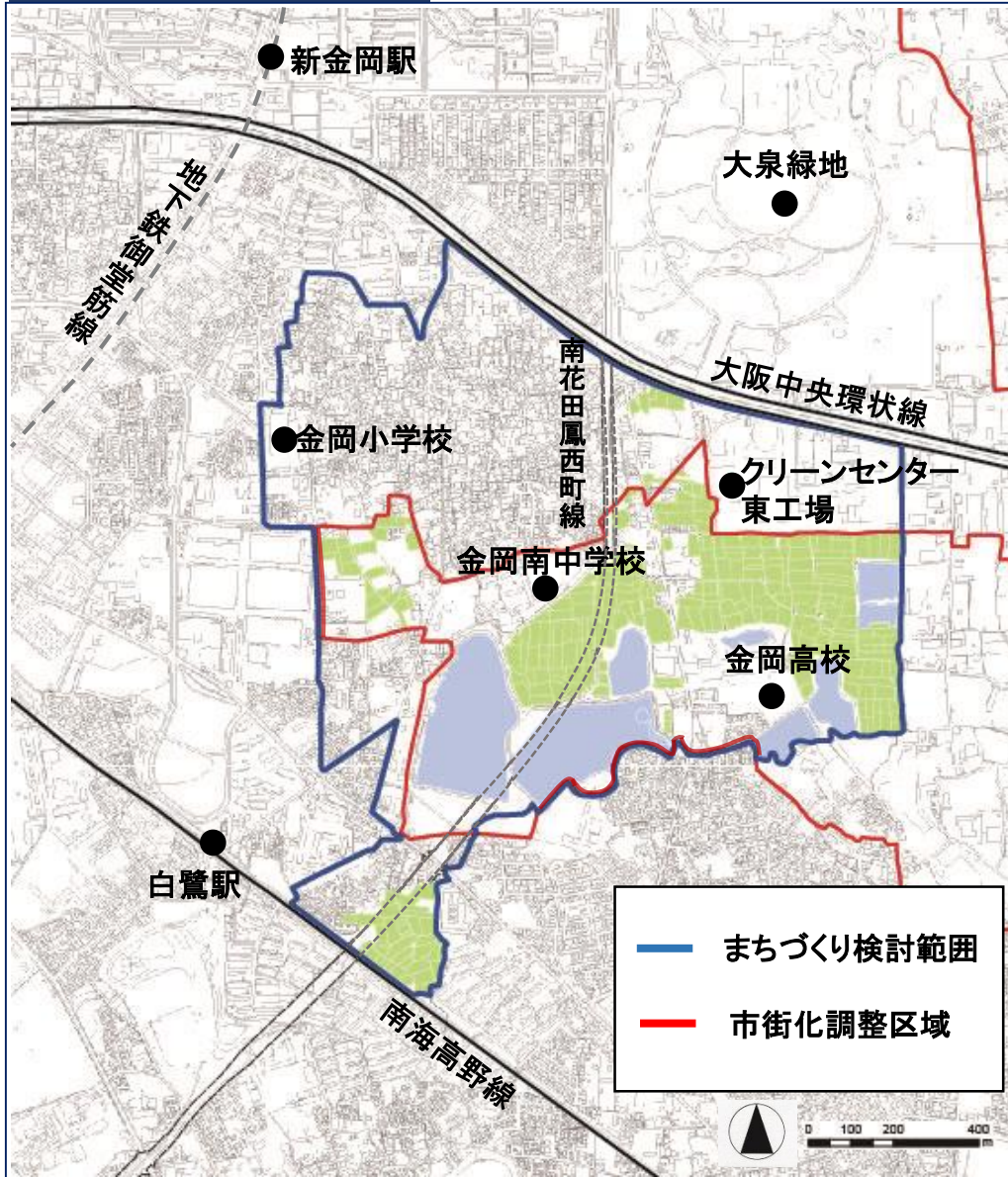
中学生

第4章

結論

研究対象地区及び調査対象とするまちづくり活動期間

研究対象地



金岡地区のまちづくり活動

柳川豪の博士の学位論文(2007年)

- ◆ 1996年～2000年
住民発意期
 - ◆ 2000年3月～2001年11月
地域課題の共有期
 - ◆ 2001年6月～2003年6月
まちづくり理念の形成期
 - ◆ 2003年5月～2004年11月
土地利用ビジョン形成期
- ◆ 2005年7月
- ◆ 2016年12月

調査対象期間

研究対象地区及び調査対象とするまちづくり活動期間

活動組織

2001年11月～2008年3月

金岡まちづくり推進協議会

自治連合会
JA金岡協力会
3水利組合

事務局

(金岡まちづくりの会)

大学

・府農政室
・市農政部
・市支援課

金岡地区のまちづくり活動

柳川豪の博士の学位論文(2007年)

- ◆1996年～2000年
住民発意期
- ◆2000年3月～2001年11月
地域課題の共有期
- ◆2001年6月～2003年6月
まちづくり理念の形成期
- ◆2003年5月～2004年11月
土地利用ビジョン形成期

◆2005年7月



調査対象期間

◆2016年12月

研究対象地区及び調査対象とするまちづくり活動期間

活動組織

2008年4月～現在

金岡まちづくり推進協議会

◆推進協議会の協力体制は休止
⇒事務局を担っていた
「金岡まちづくりの会」が中心となり活動

金岡まちづくりの会

大学

・府農政室
・市農政部
・市支援課

金岡地区のまちづくり活動

柳川豪の博士の学位論文(2007年)

- ◆1996年～2000年
住民発意期
- ◆2000年3月～2001年11月
地域課題の共有期
- ◆2001年6月～2003年6月
まちづくり理念の形成期
- ◆2003年5月～2004年11月
土地利用ビジョン形成期
- ◆2005年7月
⋮
- ◆2016年12月

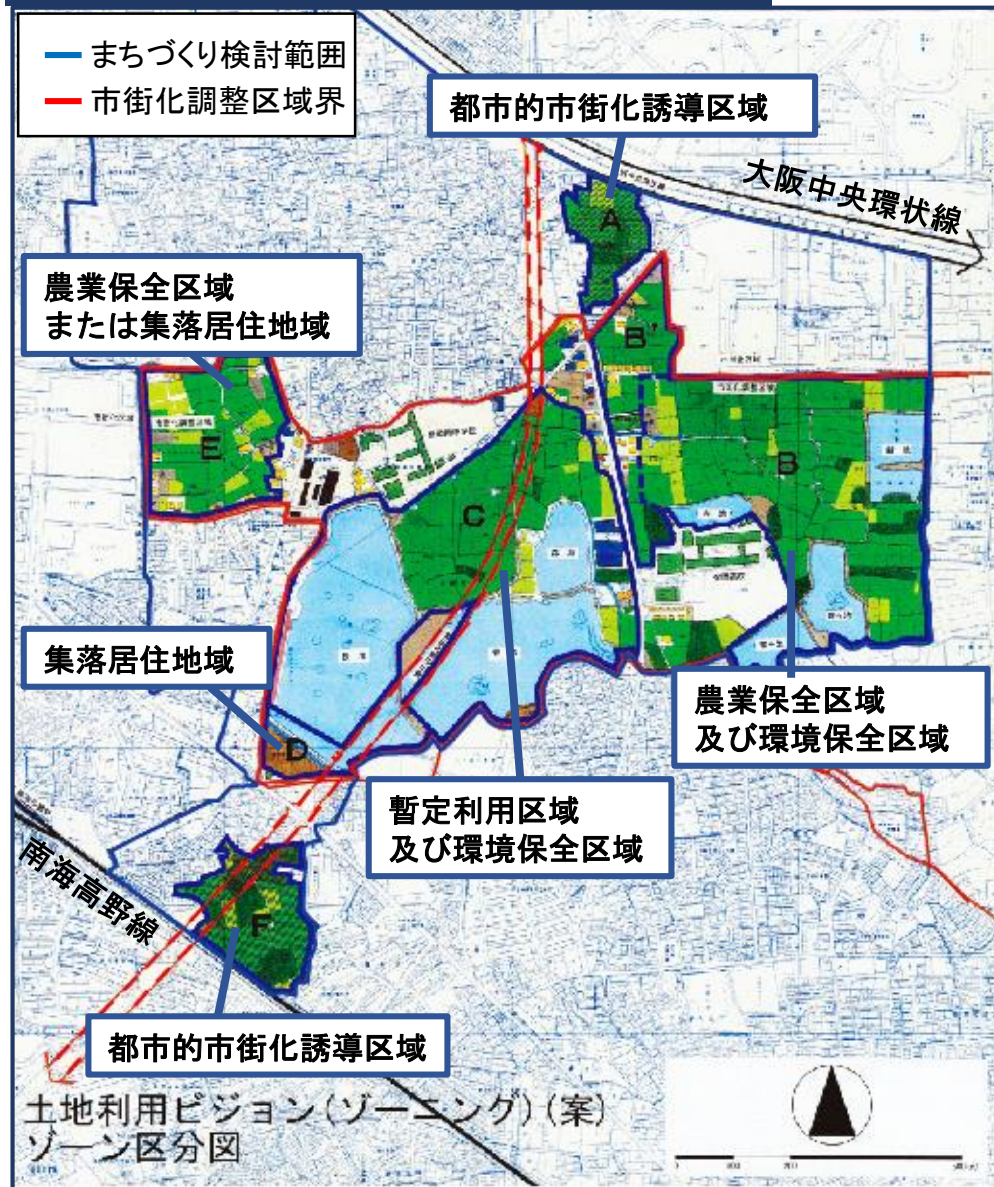
調査対象期間

2004年11月までのまちづくり活動の成果

まちづくり理念

- ① 豊富な地域住民の個性・能力を集め、活かし、みんなで地域を運営していこう
- ② 地域の宝物を守り、まちの個性を磨き続けよう
- ③ 農地を整えつつ、暮らしを支える都市的な利用に答えよう
- ④ 次世代を担う子どもを地域の人材と環境を活かして、育てよう
- ⑤ 時代の変化やニーズに対応できるしくみを作ろう

土地利用ビジョンゾーニング(案)

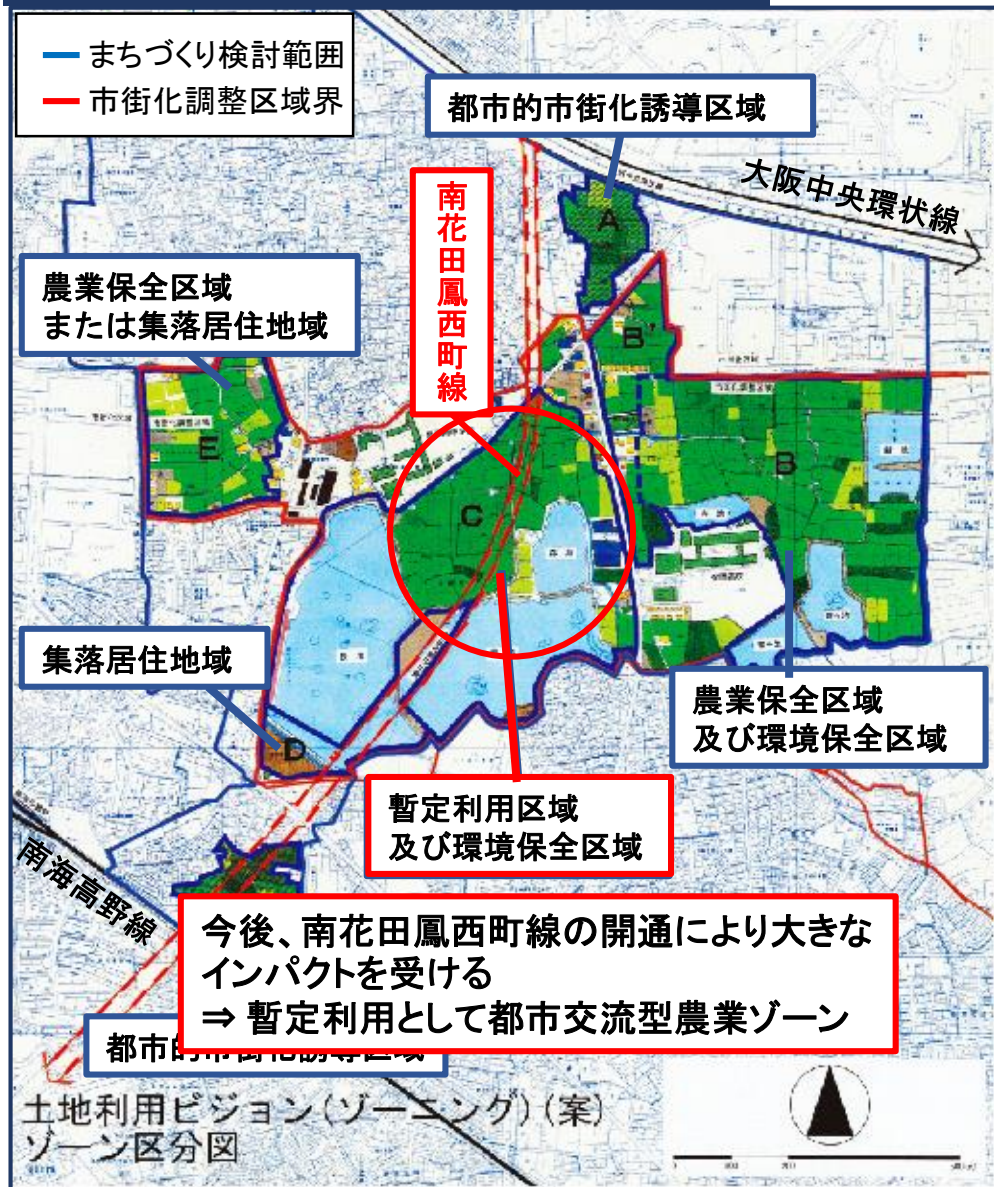


2004年11月までのまちづくり活動の成果

まちづくり理念

- ① 豊富な地域住民の個性・能力を集め、活かし、みんなで地域を運営していこう
- ② 地域の宝物を守り、まちの個性を磨き続けよう
- ③ 農地を整えつつ、暮らしを支える都市的な利用に答えよう
- ④ 次世代を担う子どもを地域の人材と環境を活かして、育てよう
- ⑤ 時代の変化やニーズに対応できるしくみを作ろう

土地利用ビジョンゾーニング(案)



2章 調査及び解析方法【まちづくり活動の変遷】

調査方法

【調査対象期間】 2005年7月から2016年12月

【対象とする活動】 金岡まちづくりの会が主体的に行っている活動内容

【活動内容の把握方法】

◆2005年7月～2007年3月：農空間づくりプラン策定支援報告書から把握

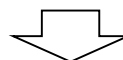
◆2007年3月～2016年12月：年間計画表及び会議資料から把握

◆資料から把握できなかった活動

⇒ヒアリング調査：金岡まちづくりの会のメンバーに対し実施（2016年8.9月）

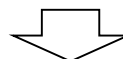
解析方法

まちづくり活動



主たる行動目的で分類して整理

主たる行動目的											
人づくり			計画づくり						組織づくり		
啓発		専門知識の獲得	地域課題の発掘				プラン検討			組織形成	組織運営
農家	地域住民		空間の課題		住民の課題		集落空間	農空間			
			集落空間	農空間	地域住民	農家		計画	整備		



活動の変遷を捉えた

2章 調査及び解析方法【まちづくり活動の変遷】

調査方法

【調査対象期間】 2005年7月から2016年12月

【対象とする活動】 金岡まちづくりの会が主体的に行っている活動内容

【活動内容の把握方法】

◆2005年7月～2007年3月：農空間づくりプラン策定支援報告書から把握

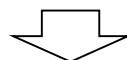
◆2007年3月～2016年12月：年間計画表及び会議資料から把握

◆資料から把握できなかった活動

⇒ヒアリング調査：金岡まちづくりの会のメンバーに対し実施（2016年8.9月）

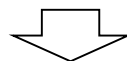
解析方法

まちづくり活動



主たる行動目的で分類して整理

主たる行動目的											
人づくり			計画づくり						組織づくり		
啓発		専門知識の獲得	地域課題の発掘				プラン検討			組織形成	組織運営
農家	地域住民		空間の課題		住民の課題		集落空間	農空間			
			集落空間	農空間	地域住民	農家		計画	整備		



活動の変遷を捉えた

まちづくり活動の変遷 (1)

2005年7月～2006年2月

主な活動

【人づくり】

- 農業イベントを通じた啓発活動
- 地権者集会での農家への啓発活動

【計画づくり】

- 整備計画の検討
- 地権者集会でのビジョン、計画の説明
- 地権者集会での合意形成

活動の周知が図られた



まちづくり活動の
周知期

2006年3月～2009年12月

主な活動

【人づくり】

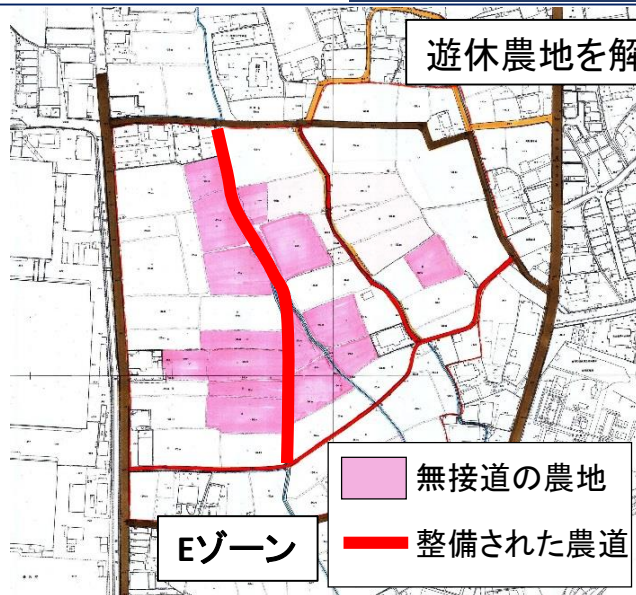
- 農業イベントを通じた啓発活動

【計画づくり】

- 農道整備
- 直売所実験事業
- 市民農園(百笑農園)の開設

道普請での農道整備

遊休農地を解消を目的に機械作業ができるよう無接道農地に農道整備



大阪府の「道普請事業」により整備

【整備区間】
2006年～2008年
Eゾーン270m
Cゾーン250m
合計520m



市民農園(百笑農園)

遊休農地の解消と市民参画型の農園づくりを目的に実施(2009年～現在)



直売所実験事業

多様な農作物の直売活動が展開できる仕組みを研究するため計7日間実施



まちづくり活動の変遷 (1)

2005年7月～2006年2月

主な活動

【人づくり】

- 農業イベントを通じた啓発活動
- 地権者集会での農家への啓発活動

【計画づくり】

- 整備計画の検討
- 地権者集会でのビジョン、計画の説明
- 地権者集会での合意形成



まちづくり活動の
周知期

2006年3月～2009年12月

主な活動

【人づくり】

- 農業イベントを通じた啓発活動

【計画づくり】

- 農道整備
- 直売所実験事業
- 市民農園(百笑農園)の開設

具体的な整備やマネジメント
が実験的に取り組まれた



まちづくり活動の
社会実験期

まちづくり活動の変遷 (2)

2010年1月～2015年6月

主な活動

【人づくり】

○農業イベントを通じた啓発活動

【計画づくり】

これまでの活動を
粛々と継続する



まちづくり活動の
継続期

2015年7月～2016年12月

主な活動

【人づくり】

○農業イベントを通じた啓発活動

【計画づくり】

○農空間計画の検討が再開

まちづくり活動の変遷 (2)

2010年1月～2015年6月

主な活動

【人づくり】

○農業イベントを通じた啓発活動

【計画づくり】

2015年7月～2016年12月

主な活動

【人づくり】

○農業イベントを通じた啓発活動

【計画づくり】

○農空間計画の検討が再開

事業認可が下りたため、今後
周辺状況が大きく変化するこ
とが予測され、農空間計画を
検討する必要性が生じた

都市計画道路
南花田鳳西町線



まちづくり計画の
再検討期



啓発活動としての農業イベント



田植え

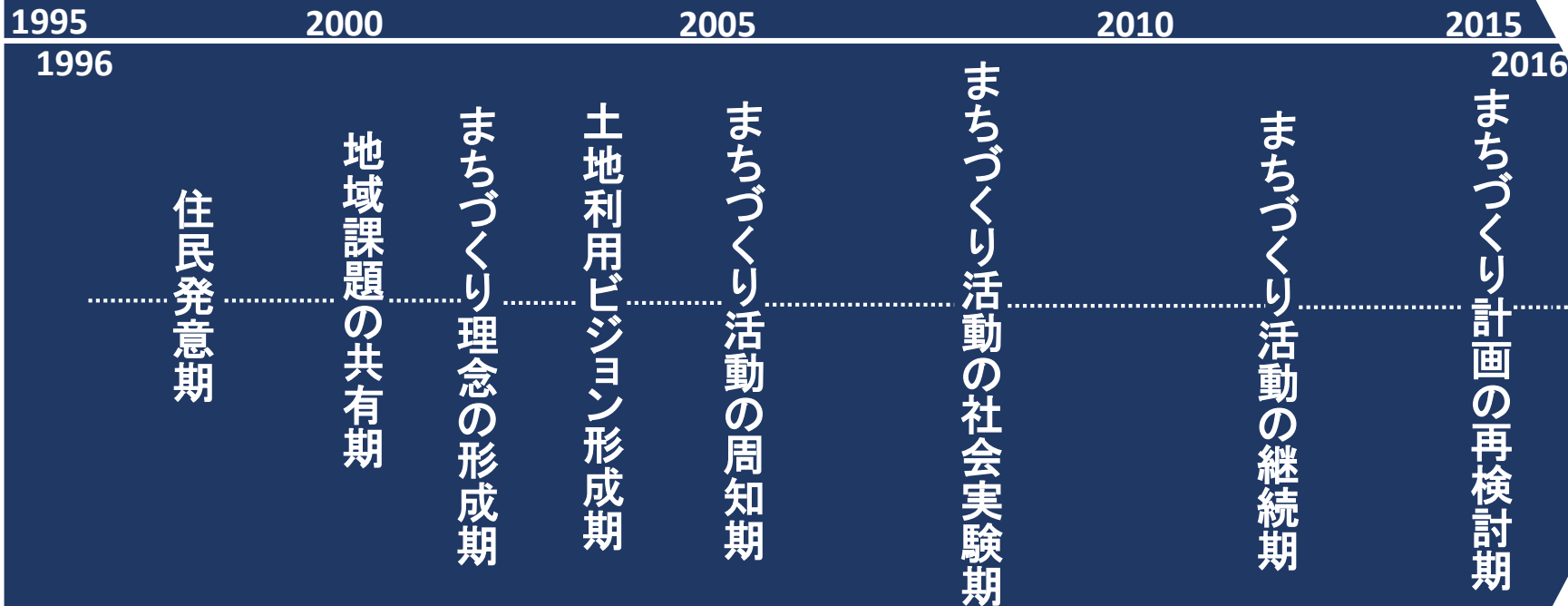


コスモス定植



収穫祭

まちづくり活動の変遷【まとめ】



啓発活動としての農業イベント



田植え



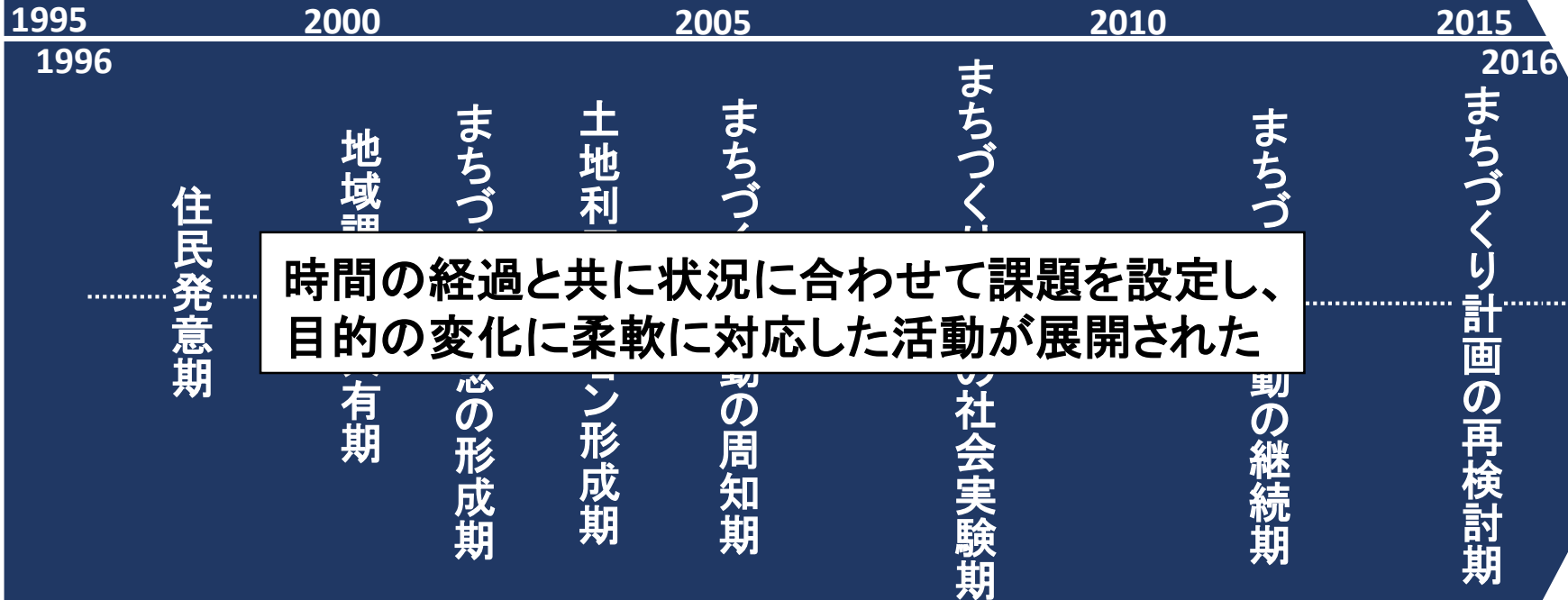
コスモス定植



収穫祭

活動当初(まちづくり理念形成期)から現在まで継続

まちづくり活動の変遷【まとめ】



2章 調査及び解析方法【金岡地区の農業動態】

農家（販売農家）の動態

【調査対象年】

2000年、2010年

【調査項目】

- ◆農家数及び専兼別推移
- ◆経営耕地面積及び種目別内訳推移
- ◆農業就業人口推移

⇒金岡町：世界農林業センサス集落カード
旧堺市、大阪府：世界農林業センサス
を用いて把握

農地の動態

2002年既往調査

農地、ため池を抽出

【調査時期】

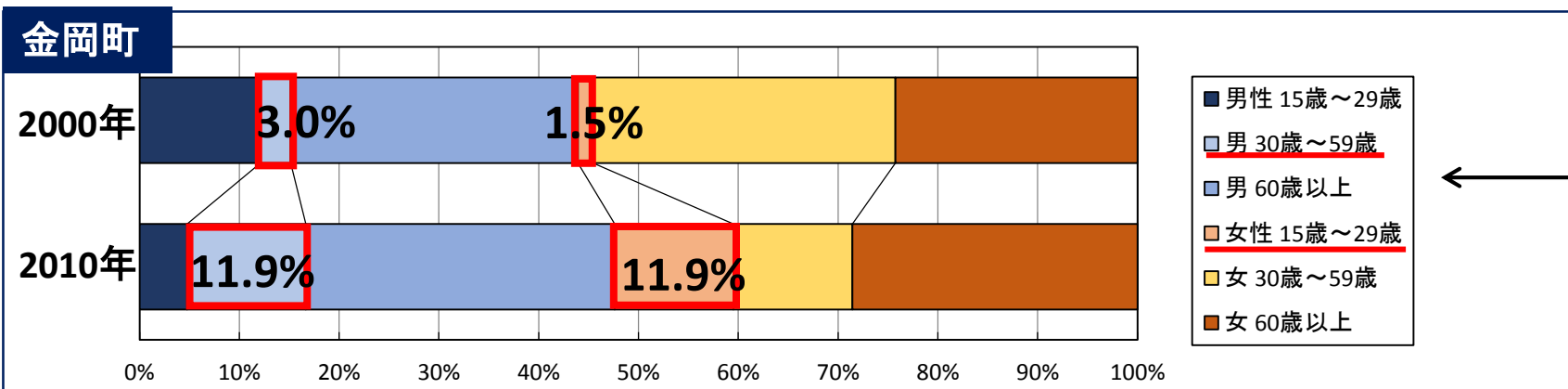
2016年7月・8月

【調査内容】

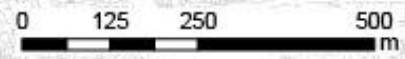
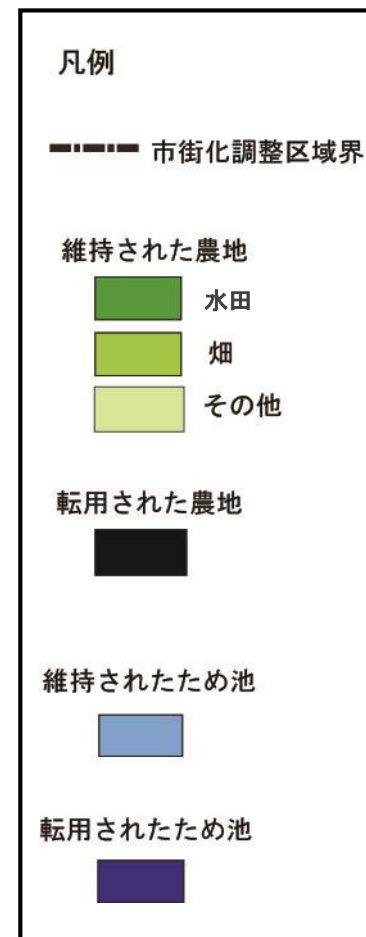
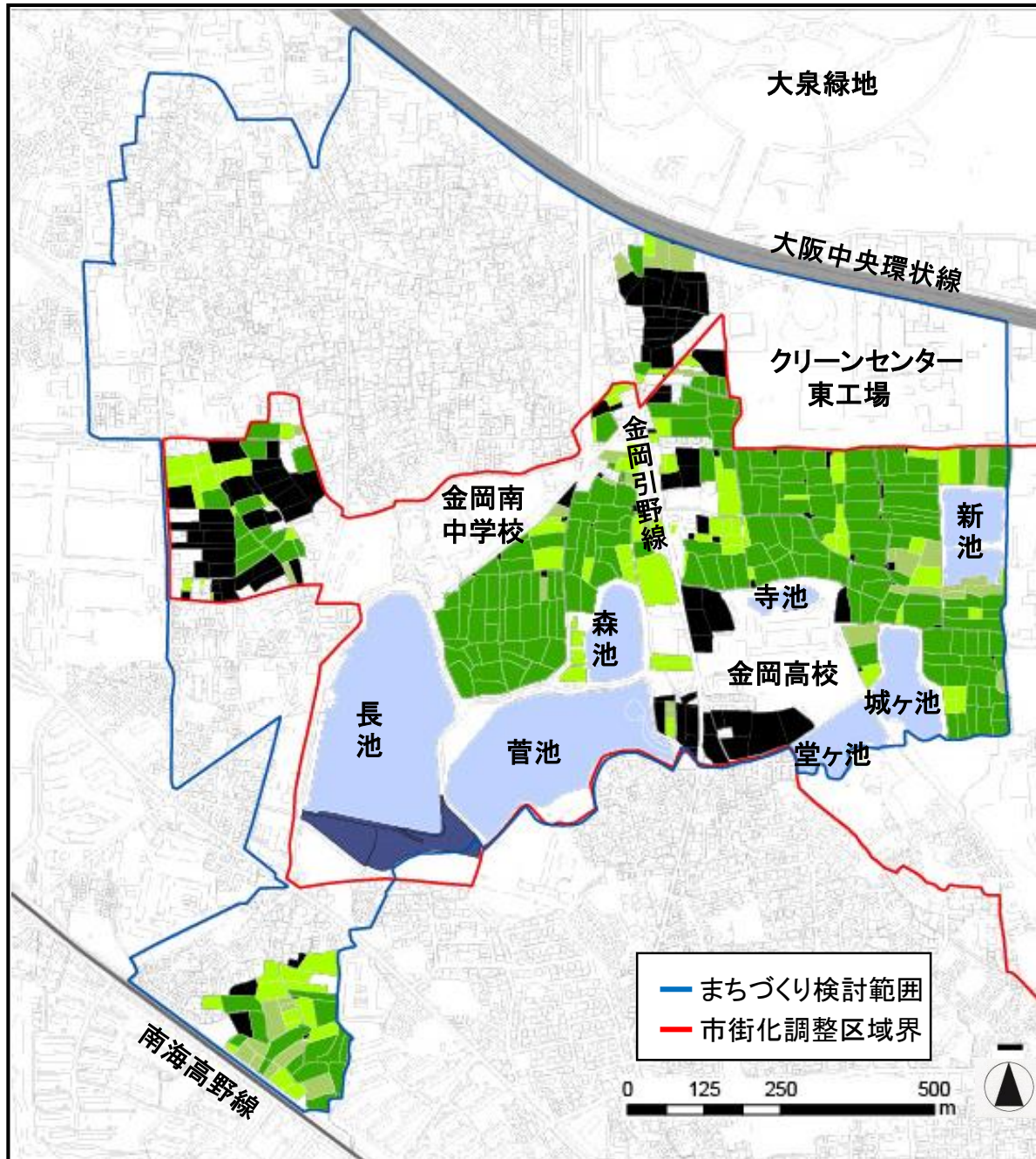
- ◆現地調査により土地利用を把握
- ◆ArcGISVer.10.0を用いて面積を算出

金岡町の農業動態【農業動態(販売農家)】

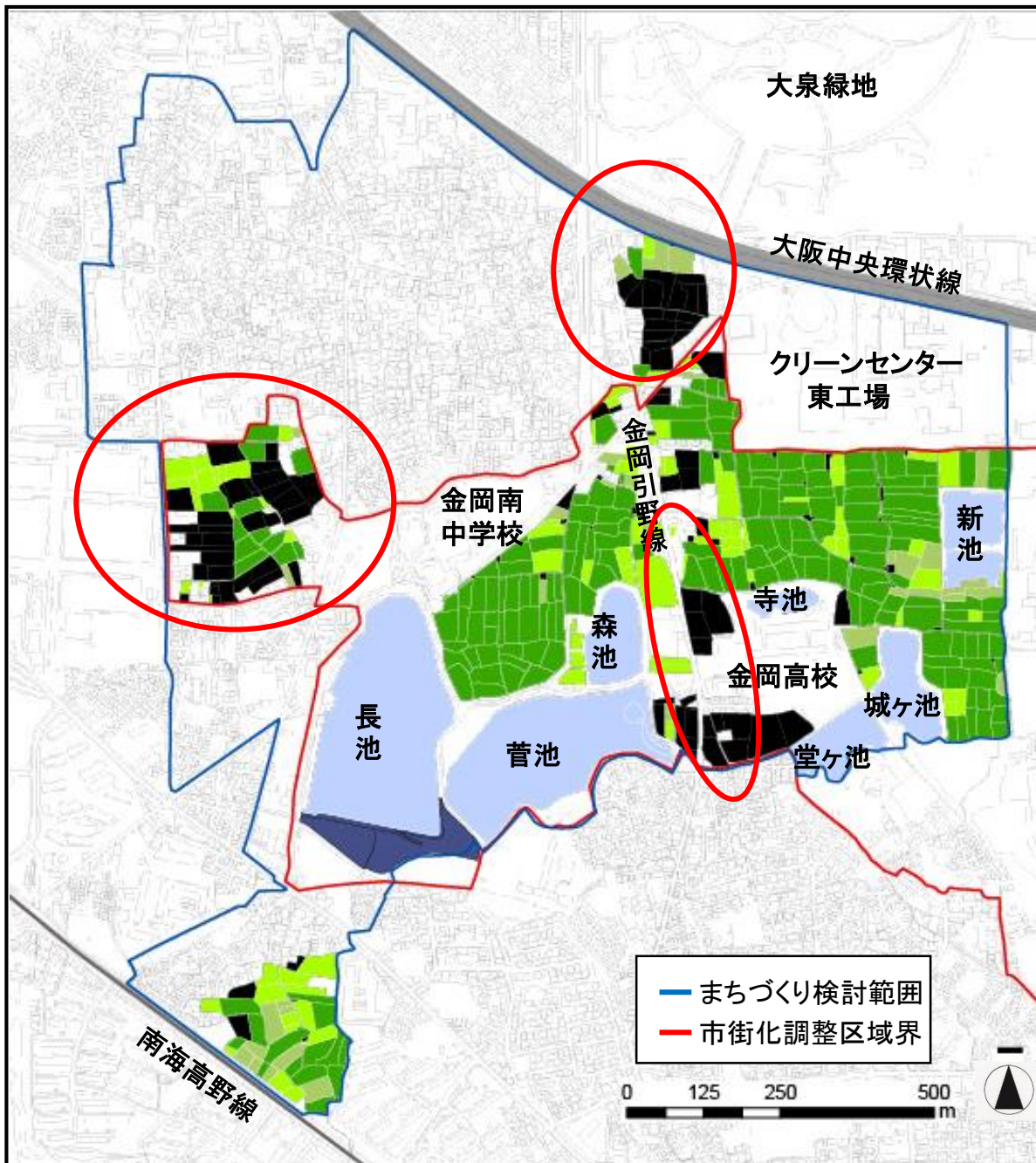
	農家数	経営耕地面積	農業就業人口
金岡町	2000年 36戸 2010年 22戸	2000年 18.6ha 2010年 17.1ha	2000年 66人 2010年 42人
	対前年度増加率 -38.9%	対前年度増加率 -8.2%	対前年度増加率 -36.4%
堺市	2000年 1142戸 2010年 705戸	2000年 586ha 2010年 422ha	2000年 2091人 2010年 1235人
	対前年度増加率 -38.3%	対前年度増加率 -28.0%	対前年度増加率 -40.9%
大阪府	2000年 14612戸 2010年 10497戸	2000年 8439ha 2010年 6568ha	2000年 27516人 2010年 17863人
	対前年度増加率 -28.2%	対前年度増加率 -22.2%	対前年度増加率 -35.1%



金岡地区の農業動態【農地の動態】



金岡地区の農業動態【農地の動態】



凡例

市街化調整区域界

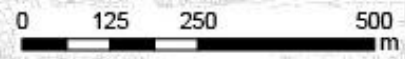
維持された農地

- 水田
- 畑
- その他

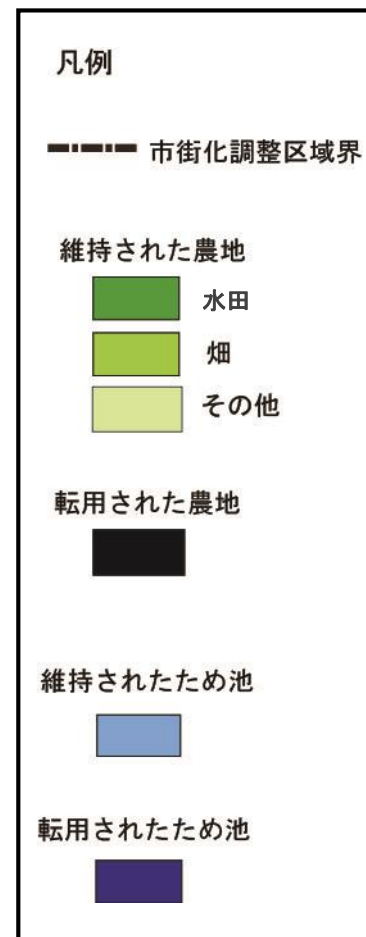
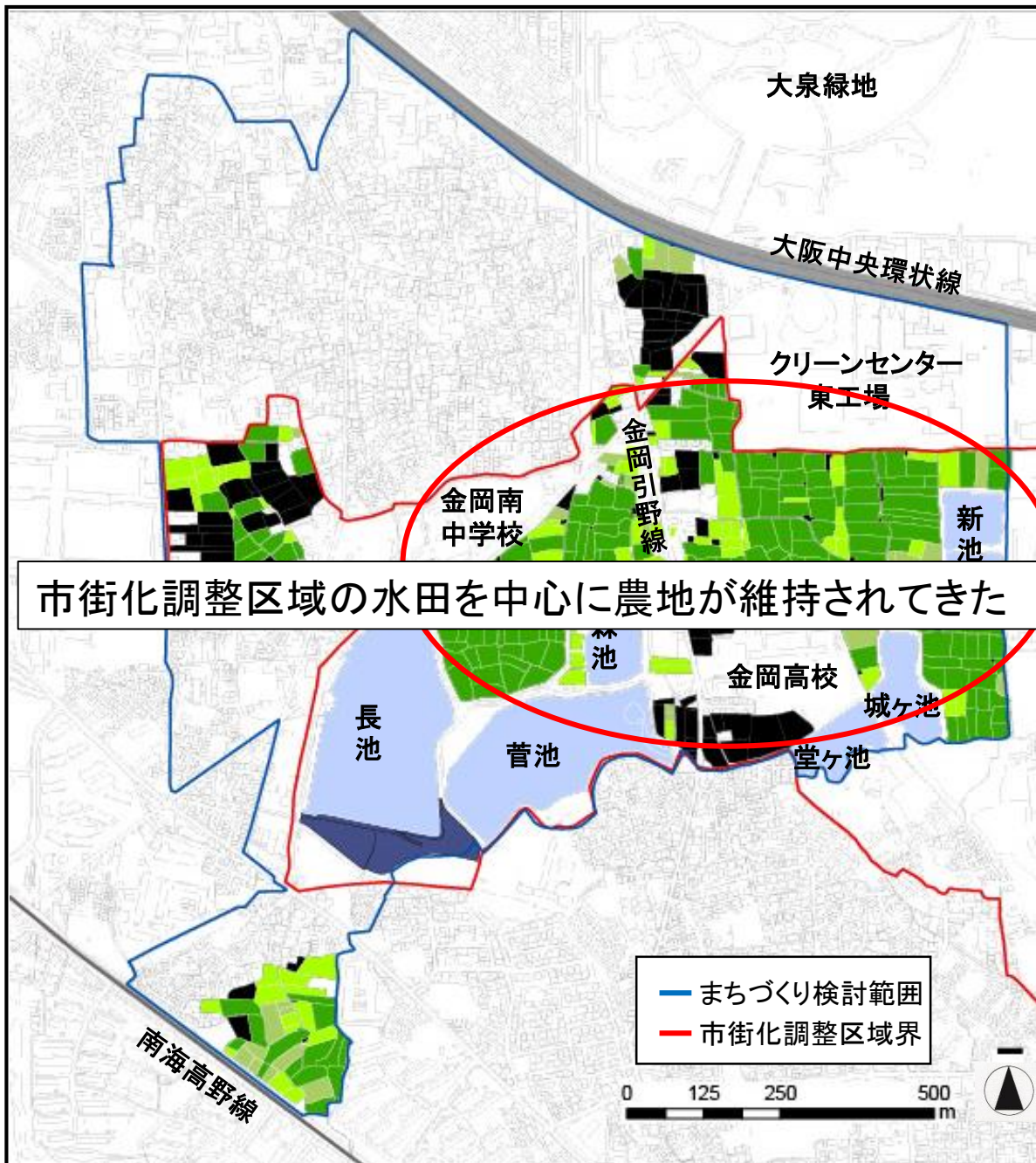
転用された農地

維持されたため池

転用されたため池



金岡地区の農業動態【農地の動態】



3章 調査及び解析方法【農空間保全等に対する意識の変化】

アンケート調査方法

	農家	非農家	中学生
調査対象	金岡町の水利組合に属する農地所有者の世帯代表と次世代	収穫祭参加者 (地区居住者)	金岡南中学校1～3年生
調査日	2016年9月	2016年10月	2016年11月
方法	郵送配布留め置き式、水利組合協力の下で回収	直接対面方式	金岡南中学校協力の下で実施
有効回答数	世帯代表:81(69.8%) 次世代:63(54.3%)	164(100.0%)	819(94.8%)

解析方法

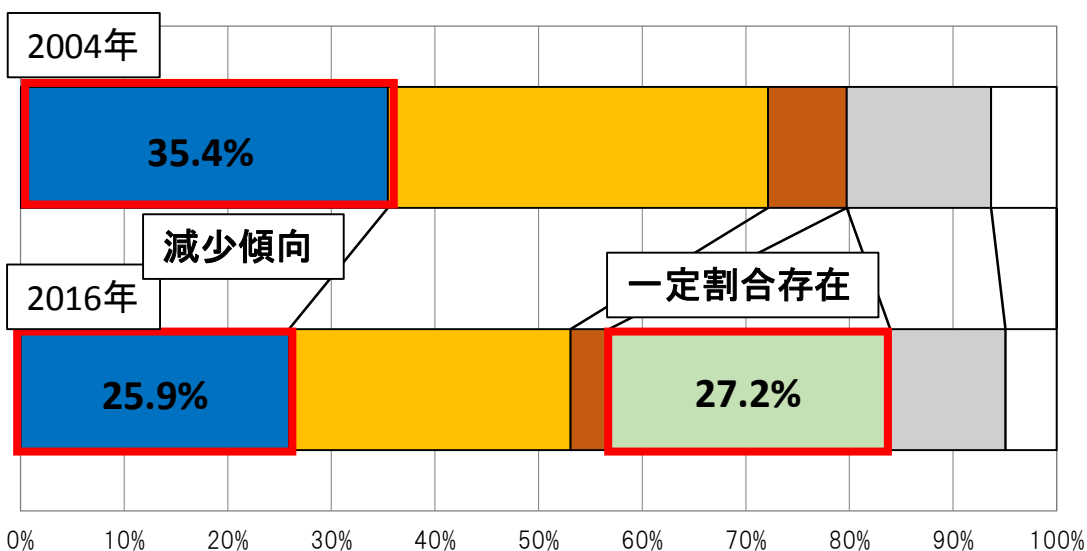
2016年
調査を単純集計



2001年、2002年、2004年の既往調査との比較を通じて農空間保全等に対する意識の変化を把握

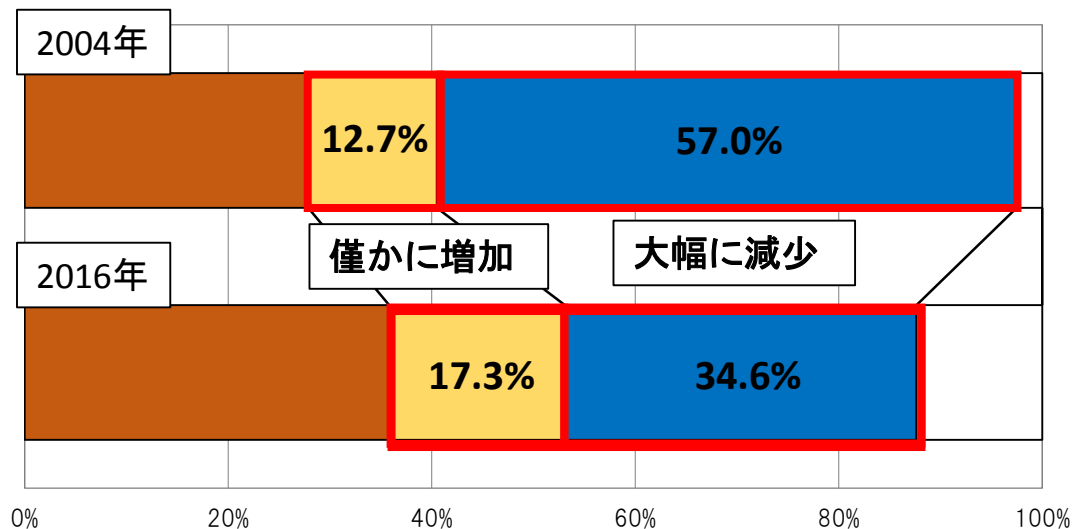
農空間保全等に対する意識の変化【農家:世帯代表】

農業との係り方



- 農業を好きでやっている
- 相続税猶予等の理由で義務的に行っている
- 時間に余裕があれば本格的にやってみたい
- 農業を実施していない・やめたい
- その他
- 無回答

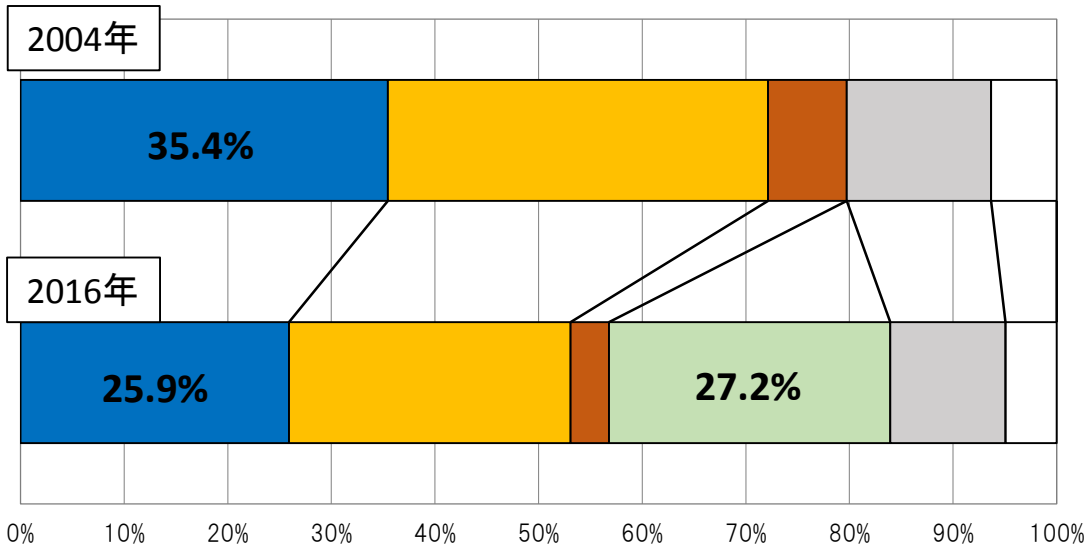
農地のあり方を検討する調整単位



- 個々の地権者に任せるのがよい
- 隣同士や水利系統など必要な範囲で調整するのがよい
- 良好な農地や環境を保つため全体で調整するのがよい
- その他・無回答

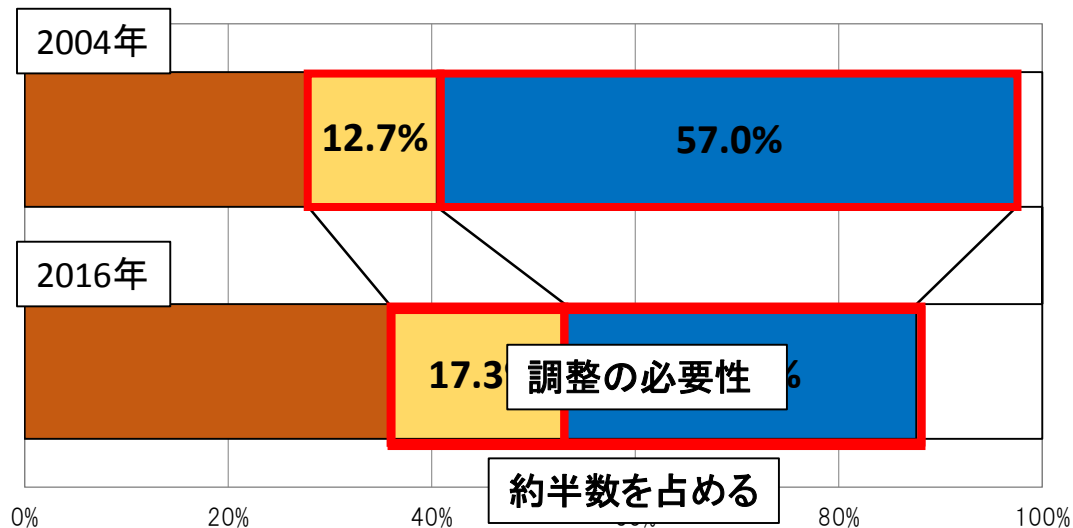
農空間保全等に対する意識の変化【農家:世帯代表】

農業との係り方



- 農業を好きでやっている
- 相続税猶予等の理由で義務的に行っている
- 時間に余裕があれば本格的にやってみたい
- 農業を実施していない・やめたい
- その他
- 無回答

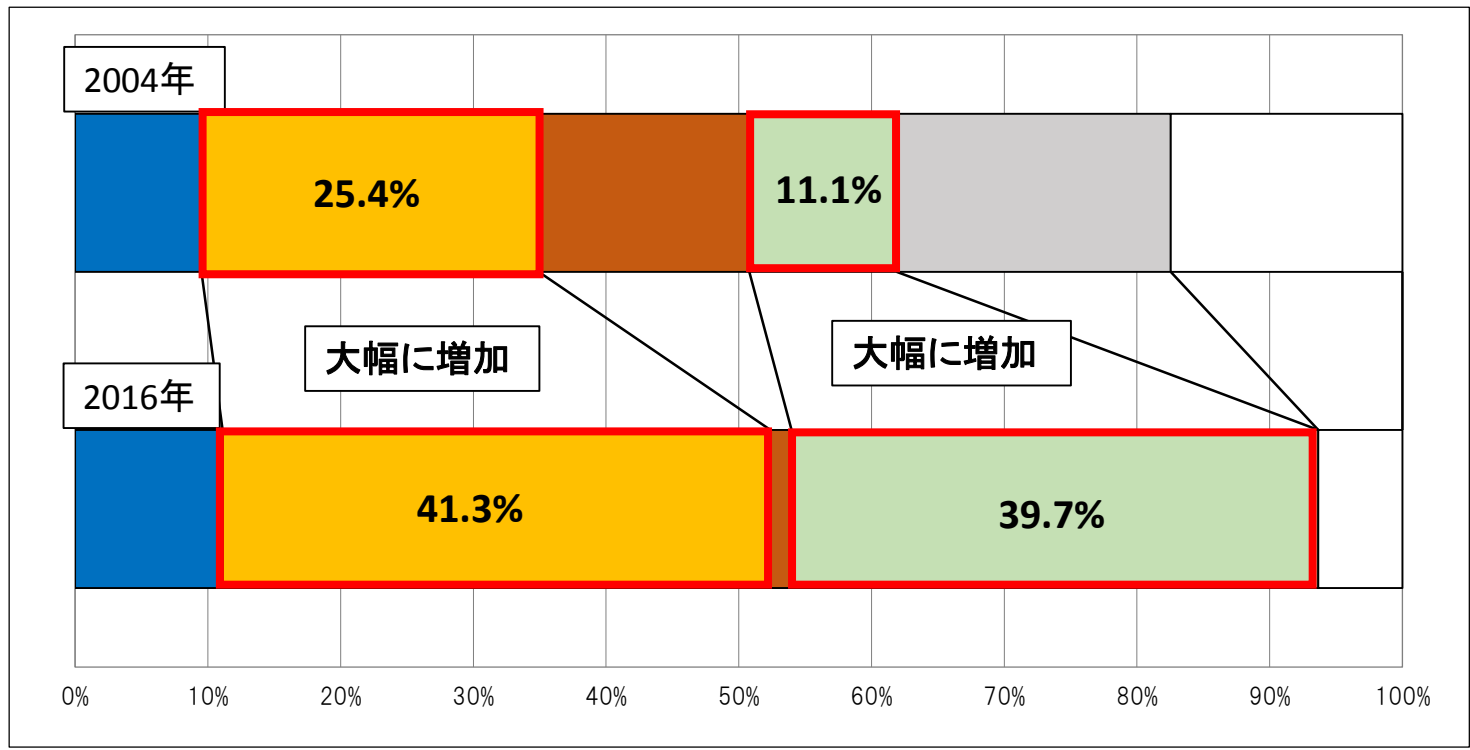
農地のあり方を検討する調整単位



- 個々の地権者に任せるのがよい
- 隣同士や水利系統など必要な範囲で調整するのがよい
- 良好な農地や環境を保つため全体で調整するのがよい
- その他・無回答

農空間保全等に対する意識の変化【農家:次世代】

農業との係り方

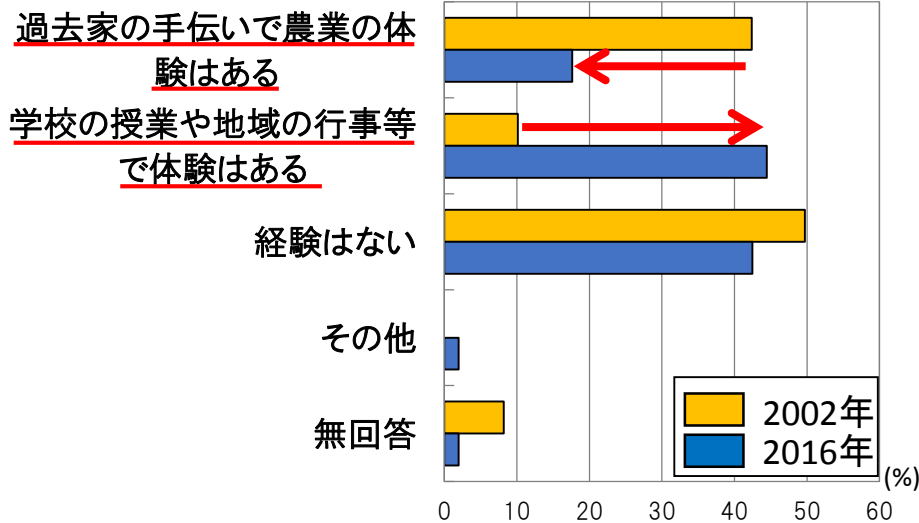


- 農業を好きでやっている
- 相続税猶予等の理由で義務的に行っている
- 時間に余裕があれば本格的にやってみたい
- 農業を実施していない・やめたい
- その他
- 無回答

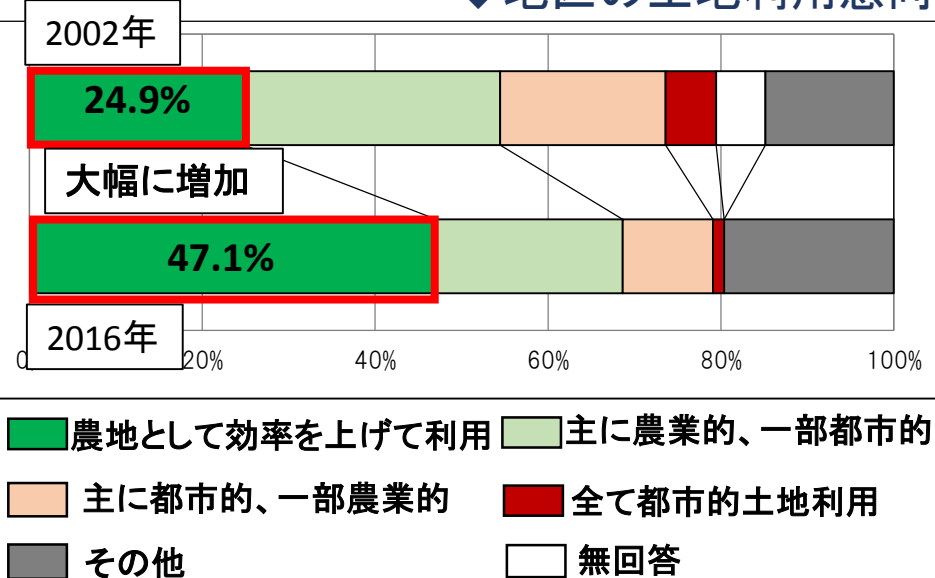
農空間保全等に対する意識の変化【非農家、中学生】

非農家

◆農業体験の有無

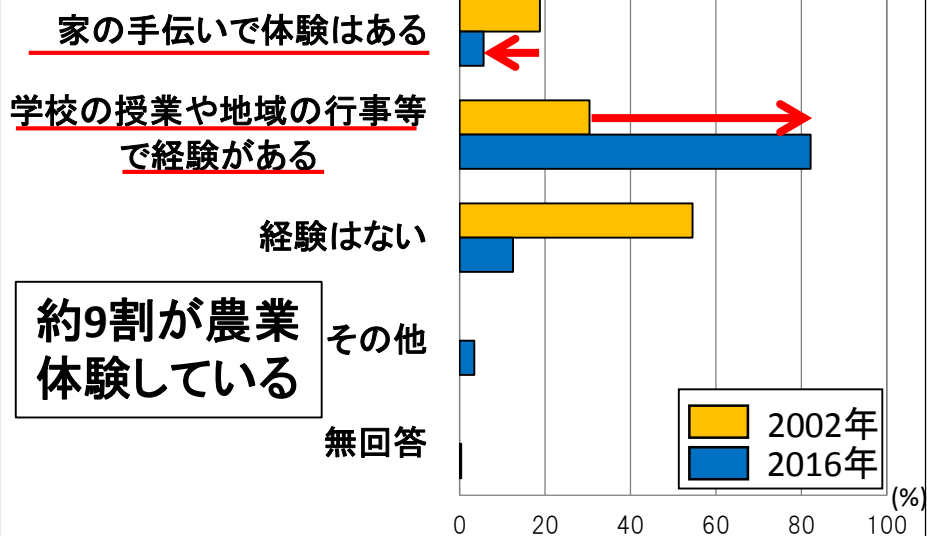


◆地区の土地利用意向

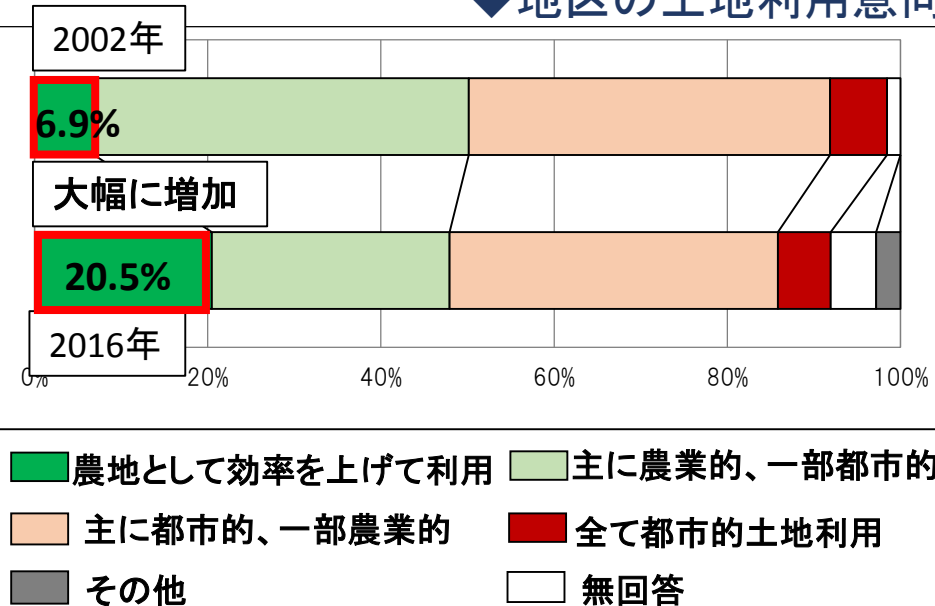


中学生

◆農業体験の有無



◆地区の土地利用意向



まとめ

◆まちづくり活動が農空間保全に対して与えた影響

◆長年に渡るまちづくり活動では地域啓発のための各種の農業イベントが継続的に展開された事に加え理念や土地利用ビジョン、社会実験など十分な周知期間を取って共有化を図ってきたため、農家同士の信頼関係が構築され、農地の貸与や作業委託も含め水田を中心にまとまった農空間が保全されてきたと考えられる。

◆非農家の都市住民と中学生は各種の農業イベント等への参加体験を通じて農業に対する理解を深め、農空間保全の意識が高まっているといったまちづくり活動の効果が確認できた。

◆一方、農家やその次世代は農空間保全のための全体調整の必要性への認識が低下していることや次世代の農業従事に対する意欲は大きく低下するなど、市街地圧の高い市街化縁辺部での農空間保全の困難さも明らかとなった。

◆まちづくり活動を長く継続するための取り組み方

活動の各段階ごとに小さな成功事例を獲得させ活動目的の変化に柔軟に対応した活動を展開させることで活動を継続させており、まちづくり活動を継続させる上でこのような取り組み方が重要であると考えられる。

ご清聴ありがとうございました

